

大杉谷国有林からの手紙

21通目 ～大杉谷を未来につなぐために～

9月となり、処暑の禾乃登（こくものすなわちみのる）の頃となりました。

ここ大杉谷は、林道をわたる風にのり、無数の赤とんぼが舞うなど、一足先に秋の訪れを感じる今日この頃です。

突然ですが、8月11日の「山の日」、皆さんは、どこの山に行きましたか？

やはり、私は、大杉谷、一筋です。

さて今回は、私達に、豊かな森の恵みをもたらしてくれる大杉谷を未来につなぐ取組について、2つご紹介します。



まず、1つ目は、9月27日に大台町役場で開催される「国有林の森林計画に関する地域懇談会」についてのご紹介です。

皆さんは、「地域懇談会」を知っていますか？

知らない方も多いと思いますので、ここで「地域懇談会」の目的をご紹介します。

近年、森林に対する期待や要請は、益々多様化しています。このため、私達、林野庁近畿中国森林管理局では、これらのニーズに応え、国有林の管理経営を行っていくため、国有林に関する情報をわかりやすく発信するとともに、地域住民の皆さんとのつながりを強め、国有林への関心や期待、意見を知ることが重要と考えています。

国有林では、管理経営の方針、方法を明らかにするため、5年を1期とした森林計画を策定し、これに基づき管理経営を行っています。地域からの情報・意見は、今後の計画を考える上での重要な要素であり、森林計画策定の前年度に、懇談会を開催し、各計画区内にお住まいの皆さんにご参加いただいているものです。

この手紙の舞台である大杉谷国有林は、南伊勢森林計画区にあり、平成30年度に次期計画を樹立します。この南伊勢森林計画区は、三重県中央部に位置し、国有林野は阪内川上流部（松阪市深山）、櫛田川上流部に小面積の団地（松阪市大名倉、千石平）、宮川源流部にまとまった団地（大台町大杉谷）が分布しています。



尾鷲熊野森林計画区の地域懇談会（平成28年度）

計画区の森林面積は約165千haで、うち国有林野は約7千a(4%)、ほぼ全域が水源かん養等の保安林に指定され、国土保全、水源涵養機能など公益的機能の発揮に重要な役割を担っています。

特に、大杉谷国有林は、森林生態系保護地域、国立公園、ユネスコエコパークに指定されており、環境等に配慮した特別な保全・管理が求められています。

地域懇談会では、国有林における特徴的な取組と次期計画の検討報告についての説明を行い、参加者の皆さんから、ご意見、ご要望を伺うこととしています。

この計画区での特徴的な取組としては、地球温暖化対策へ貢献と災害に強い森林づくりのための間伐や治山事業の推進を、大台町大杉谷国有林での、大杉谷森林生態系保護地域等の保護林、森の巨人たち100選に選ばれた一本杉の保護管理、オオダイガハラサンショウウオの生息環境の保全、ニホンジカによる森林被害対策を、松阪市深山国有林での、ケヤキ文化財継承林と社会貢献の森としての「ボランティアによる森林整備の森」などの取組について、説明を行う予定です。

9月20日まで募集していますので、皆さんのご参加をお待ちしています。

なお、詳細は (http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/keikaku/attach/pdf/02_mimaniise.pdf) まで。



2つ目は、9月30日(土)の「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」についてのご紹介です。

この活動は、平成12年度から「皮剥防止用ネットの取付作業など樹木保護活動を通じてニホンジカ被害の実態と樹木保護の重要性」を皆さんに知ってもらおうと実施しているもので、昨年度から環境省近畿地方環境事務所と共催で実施しています。

今年は、ネット巻きとササ刈りをしますが、先着順なので、早めにご応募を！

秋の1日、大台ヶ原・大杉谷で、みんなで、汗を流して、貴重な森林を未来につないでいきましょう！

なお、詳細は (<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/attach/pdf/information-10.pdf>) まで。



雲一つない秋晴れの下でのネット巻き(平成27年度)

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)